

エコドライブについて

エコドライブを実践することは、無駄なガソリンの消費を抑え、CO2 排出抑制にもつながりますので、環境負荷の小さい運転を心掛けることが大切です。

<今日からできるエコドライブ 10 のポイント>

1. 不要なアイドリングをやめましょう

荷物の積み降ろし、駐車場の空きを待つ間など、ちょっとした時にエンジンを止める。こうした「アイドリング・ストップ」をまずは確実にいきましょう。乗用車がアイドリング時に使う燃料は、10 分間で 0.1～0.2 リットル程度。1 回ではわずかな量でも、日々続ければ大変な量になります。必要なればこまめにエンジンを止める。簡単なことですが、ドライバー誰もが当たり前のこととして身につけたいものです。

2. 経済速度で走りましょう

一般道なら時速 40km 程度、高速道路なら 80km 程度で走るのが経済的な走り方です。高速道路において、車間距離を詰めたり、速度にムラのある走り方をすると、加減速の機会も多くなり、その分燃費も悪くなります。

3. タイヤの空気圧をチェックしましょう

タイヤ空気圧の定期的なチェックはトラブル防止ではありません。低い空気圧での走行は燃費にも影響します。空気圧の適正值(メーカーの指定空気圧)から 0.5kgf/cm²(49kPa、およそ 1/4)減った状態では、100km の走行で 0.2 リットル近くガソリンを余分に消費することになります。これは、1 回の給油で 1 リットル近くのガソリンの無駄使い、定期的に空気圧をチェックする習慣を身につけ、適正に保ちましょう。

4. 不要な荷物を降ろしましょう

車にある荷物はできるだけ少なめに。荷物をたくさん積むと、車の重量が増えるので当然燃費は悪くなります。約 30kg の荷物を積みっぱなしにすると、1 ヶ月で 1,000km 走行したとして 1 リットル近くのガソリンを余分に消費することになります。

5. 暖機運転は適切にしましょう

暖機運転(走行前にエンジンを暖めてあげる)ことは水温計の針が動き出したら基本的に充分です。それ以上エンジンをかけっぱなしにしておくのは、「不要なアイドリング」と同じです。5 分間の余分な暖機運転を 30 回行くと、約 2 割のガソリンを無駄に使います。寒冷地など特別な状況を除き、走りながら暖めるウォームアップ走行で充分です。

6. 急発進・急加速はやめましょう

“急”がつく操作は燃費にも悪影響を及ぼします。100 回の急発進や急加速で約 1.2 リットルのガソリンを余分に消費します。環境の点からもスマートな運転とはいえません。おだやかな発進、加速でエコドライブ!

7. エンジンプレーキを積極的におこないましょう

エンジンプレーキとは、フットブレーキを使わずにアクセルを戻すことでスピードが落ちる状態を言います。減速時はブレーキペダルを踏むよりも、早めにアクセルを戻し、エンジンプレーキを使う方が燃費もよくなります。効果的に減速するために、OD(オーバードライブ)を OFF にしたり、D からセカンドへのシフトダウンを活用しましょう。

AT 車の場合、規定の回転数(最近の車は 1500rpm 前後が多い)になった時にアクセルを戻すと、燃料がエンジンに供給されなくなります(フューエルカット機能)。

8. 駐車場はよく考えましょう

その場所に車を停めるのは違法ではありませんか? 他の車の迷惑になりませんか? 交通の流れが乱れるようなところに車を停めると、通行する車は不要な加減速を強いられたり、渋滞によるアイドリングが発生します。また、歩行者、ドライバー双方の視界が妨げられるため、交通事故をひきおこす原因にもなります。

9. 夏のカーエアコンの設定は 1 高めにしましょう

エアコンはコンプレッサーを作動させるため、エンジンに負担をかけます。燃費を少しでもよくするには、エアコンの温度や風量をこまめに調整しましょう。特に夏場は暑いからといって冷やしすぎないように。時にはエアコンを切って外の空気を入れてみるのもいいのでは?

10. 計画的にドライブしましょう

ゆとりのある運転はエコドライブにもつながります。急がない、迷わないことは、燃料の無駄使いも防ぎます。道に迷って 10 分余計に走行すると約 350cc の燃料が消費されます。出発前にルートプランを立ててドライブしましょう。